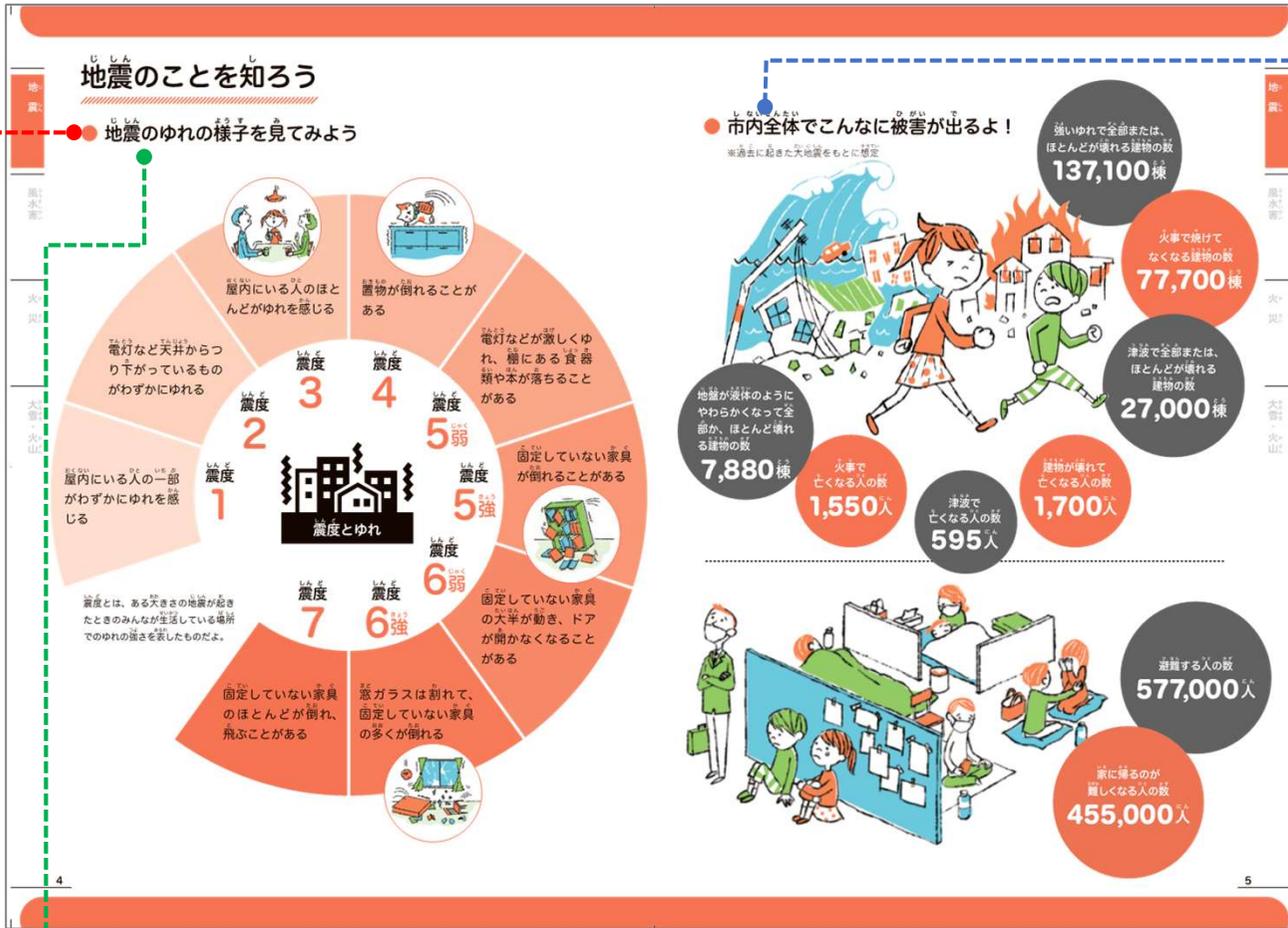


文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)



【児童考察】

被害について考える際は、大地震が発生したらどうなるだろう、どのようなことが起こり得るだろうか、津波、建物倒壊、火災の発生、土砂崩れ、避難所についてなど具体的に問いかけ、想像を膨らませよう導く。

【地震のゆれの説明】
①震度とは地震の揺れの程度をあらわしたもので、0～7までの10階級ある。※5～6は弱強であらわす。

震度はどうやって決めるのか？
地震による揺れを感じ自動的に関度を計算する「震度計」という機械で計測している。

地震が発生すると全国の震度計で観測された震度を自動的に収集し、気象庁では震度3以上の地震が発生した場合、約1分半後には各地域の震度を速報でお知らせしている。

※参照：国土交通省 気象庁 リーフレット「その震度 どんなゆれ？」

【地震のゆれのミニ知識】

震度はなぜ5と6だけ強弱と二種類あるのだろうか。
観測計で観測した震度の数値を四捨五入して、切り上げてその震度になったものは「弱」、切り捨ててその震度になったものは「強」となる。

- （具体例）
- 5弱・・・大半の人が恐怖を感じ、周囲の物につかまりたくなるようなゆれ
 - 5強・・・周囲の物につかまらなさと歩けないほどのゆれ
 - 6弱・・・立っているのが楽になるようなゆれ
 - 6強・・・床をさわなさと歩けない、激しい揺れにより飛ばされることもある

※参照：国土交通省 気象庁 リーフレット「その震度 どんなゆれ？」

文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

[児童考察]

地震が起きたら必ず机の下にもぐると認識している児童がいるかもしれないが、地震の時は、ものが「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所に素早く身を寄せることが大切である。屋外にいるときも想定し場所や状況に応じて行動は変わるということに気付かせたい。

[児童考察]

地震や火事の時、子供は自分の判断で命を守る必要がある。難しい言葉を使わず一言で伝えられるため、年齢に関係なく理解しやすく、すぐに定着させることができる。

● 登下校中、大きな地震が起きたら？

上から落ちてきそうなもの、倒れてくるものに注意して、自分の身を守ろう！

ココが大切！

- 学校に避難したときは、おうちの人が迎えに来るまで学校にいろ！
- 家が壊れている場合は学校に避難しよう！

● 家にいるとき、学校が休みのとき、大きな地震が起きたら？

● 屋内にいたら？

- ぐらっときたら、机やテーブルの下にもぐろう
- 火が出ていたら、外に出て大声で人を呼ぼう
- 避難するときは、エレベーターを使わないようにしましょう
- もしエレベーターに乗っていたらすべてのボタンを押し、止まった階でおいて身を守ろう

● 屋外にいたら？

習い事や放課後の学童にいたら？

天入にしたがおう！

海や川の近くにいたら？

逃げる時間があるときは遠くへ！逃げる時間がないときは近くの高い場所へ逃げよう！

公園にいたら？

すぐに遊具から離れて身を守ろう！

ココが大切！

- 外に出かけるときは、おうちの人にどこへ行くかしっかり伝えよう！
- 家に帰れなくなったときは、むやみに移動せず、まわりの安全を確認したり、家族に連絡しよう。

[児童考察]

発災時、場所や状況によってとる行動が変わってくる。平常時であれば、落ち着いてどのような行動をすればよいか考えられるが、地震発生時は、ほとんどの人が動けなくなる。そのため、特に避難訓練時は、災害時のシミュレーションを具体的に想定するだけでなく、様々な場所での行動を想定できるようにする。

[エレベーターの説明]

全ての階のボタンを押し、最初に停止した階で降りるのが原則だが、停止した階で慌てておろすのではなく、階の状況を見極めるのも大切。

②地震の時は閉じ込められている人も大勢いると予想される。救助がすぐに駆け付けられるとは限らない。焦らず冷静になり「非常用呼び出しボタン」等で連絡を取る努力をする。

※参照：消防庁防災マニュアル

[避難時のミニ知識]

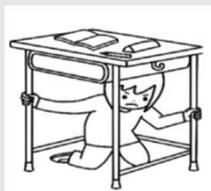
①小さな揺れの時、又は揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口の確保をする。

地震がおさまってから、すぐに行動をすると、予期せぬタイミングで物が落下してくることもある。そのため、しばらくはテーブルの下などへ身を隠しておく。

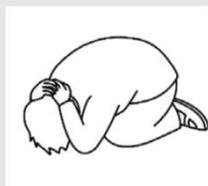
※参照：消防庁防災マニュアル

①命を守る3つのポーズ

1. サルのポーズ (地震：机がある時)



2. ダンゴムシのポーズ (地震：机がない時)



3. アライグマのポーズ (火事の時)



文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

【地域防災拠点の説明】

「地域防災拠点」という名称は、災害対策基本法が改正される以前から避難生活を送る場所として広く周知している。

横浜では、上記のように指定避難所を指定はするものの、「地域防災拠点」という名称を今後も継続して使用していく。

※参照：横浜市「地域防災拠点 地域防災拠点(指定避難所)とは」

【津波注意報の説明】

予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。

(取るべき行動)

海の中では人は速い流れに巻き込まれる。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。

【津波警報の説明】

予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。

(取るべき行動)

標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。

ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。

※参照：気象庁「津波警報・注意報、津波情報、津波予報について」

地震が起きたときの避難場所を確かめよう!

家族や友だちと話し合ってみよう

ワークシート

あらかじめ家族と話し合っておく

自分の家

家に大人がいないときは、家族や近所の人に無事であることを伝えよう!

公園などの広くて安全な場所

地域防災拠点(小・中学校など)

- 家が壊れて生活できない人が避難する場所だよ!
- みんなが避難してしまうと入らぬ場所!

津波注意報・警報が出たら?

海や川からすぐはなれよう

少しでも高い場所へ、避難しよう

ココが大切!

家族に自分の無事を伝えよう

携帯電話を持っていれば「災害用伝言ダイヤル171」「災害用伝言板 web171」が使えるよ!

自分が行く地域防災拠点(小・中学校など)を調べよう!

家が一番安全な場合は、必ずしも外へ避難する必要はないよ!

検索ボタン

大きな地震が起きたときに、家族が集まる場所はどこ?

家族の集合場所 避難場所 連絡方法

家の中で危険な場所と安全な場所はどこかな?

危険な場所 安全な場所

外で安全に避難するために気をつけることはなにか?

気をつけること

いざというとき持ち出すものリスト

<input type="checkbox"/> たべもの(かんづめ、乾パンなど)	<input type="checkbox"/> 貴重品(財布など)	<input type="checkbox"/> 体温計
<input type="checkbox"/> 飲み水	<input type="checkbox"/> 薬	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ	<input type="checkbox"/> フライヤー・あうそく	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 携帯電話・モバイルバッテリー	<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 懐中電灯・ランタン	<input type="checkbox"/> マスク	<input type="checkbox"/>

ほかにも必要なものがないか、確かめてみよう。

【津波のミニ知識】

津波はジェット機なみの速さでおよよせてくる。海上の場合、深さによって下記のような例えが出来る。乗り物に例えてみると、いかに津波の威力が凄まじいかわかってくる。

深さ5,000m=ジェット機と同じくらいのスピード

深さ500m=新幹線と同じくらいのスピード

深さ50m=自動車と同じくらいのスピード

津波注意報が発令された際、速やかに避難することが重要。津波が到達してしまうと、ひざ程度の高さでも立ってられない。

《具体例》2011年3月11日に発生した東日本大震災では、津波注意報が発令されたものの、実際に津波からの避難を想定している方は多くなかった。津波は、地震発生から数分後に発生し、多くの人々が逃げ遅れ被害に遭われた。

※参照：三重県教育委員会「防災ノート」

【児童考察】

定期的に家族で防災について話すことで、災害に対する危機意識を風化させないことが目的。常に災害に気を張っていることは難しいが、毎年必ず災害に向き合う時間を作ることで、少しでも災害に備えられるようにする。

